

平成30年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	12	学校名	静岡県立袋井特別支援学校	記載者	福井 達哉
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	学びを支える安全・安心な環境づくり				
	児童生徒が自ら身を守る意識を高める指導の充実と安全で安心な学校生活を送ることができる教育環境を整える。	・様々な教育活動の中で児童生徒が安全に学校生活を送れたと答える保護者・教員 100%	A	A	・職員の安全に対する意識が高まっている。 ・日頃から丁寧に児童生徒の健康・安全に配慮し、保護者との信頼関係を築いておくことが大切である。
		・アレルギー・感染症対策を意識できた教員 100% ・医療的ケア事故 0	A	A	・保護者は学校の状況が分からないので、マチコミメール等を活用し感染症情報をこまめに出す必要がある。 ・医療的ケアを安全に行うために、ヒヤリハット事例を分析し職員間で共有すること。 い。
		・校内が整理・整頓され、きれいになったと答える保護者・教員 100%	B	B	・保護者や教員の評価は高まったが、小中学部棟廊下の教材教具等の整理については工夫が必要である。
	人を大切にする言葉や行動が溢れる教育活動を推進する。	・校内における「いじめ」「体罰」「ハラスメント」 0	C	C	・管理職による職員への言葉掛けや職員が相談しやすい環境づくりが重要である。 ・ハラスメント等の研修企画よりも、職員と個別に話す時間を大切にしたい。 ・年代別の職員同士で話をするような場も有効である。 ・マンネリ化防止のため、人権チェックシートのチェック項目を工夫したい。「指導中に生徒を殴りたくなったことがある」等、職員がドキッとする内容を加えた方がいいのではないか。
限られた資源や時間の有効活用が図られる学校体制を整備する。	・年度初めと比較して効率的に業務が遂行できたと答える教職員 95%	B	B	・心身の疲労が蓄積すると、児童生徒の見取りが甘くなり、よい指導と支援ができなくなるので、早く帰宅して休養する時間を確保することは大切なことである。	

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
					<ul style="list-style-type: none"> 遅くまで残っている若い職員には、何を残っているのかを把握し、仕事の進め方も指導する必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> 袋特人材バンクを活用した教育活動の実践例紹介 80% 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> お互いに忙しくて声を掛けづらいという意見が多かった。 大げさに考えず、ちょっとした相談等での活用により、職員同士のコミュニケーションツールとして活かせるとよい。
イ 学びを積み上げる授業づくり					
	主体的で深い学びの視点による授業の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業研究会の実施 一人1授業研の実施 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会の挨拶を見ても、子どもたちの成長と袋井特支の教育が充実していると感じる。何がよかったのか、どんな指導が有効だったのかを確認しておくことが大切である。
	12年間の学びのつながりを意識した系統性のある授業づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 他学部や他学年とのつながりを意識した授業づくりができたと答える教員 95% 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員は、どこまで出来れば成功なのかイメージしづらいことから、評価が難しかったと思われる。 引き続き、学部間交流や授業研究、校外学習の整理と周知等と合わせて継続していきたい。
	多様な教育ニーズに応える高い専門性を持った教職員集団を目指した研修を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師による年8回以上の研修会等の実施。 校内の教員による年5回以上の各種ワークショップや学習会の実施 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修等の充実により質の高い教育実践ができています。 職員の入れ替わりが多く、若手教職員も増えているので、どのように育成していくのか検討が必要である。
ウ 学びを豊かにする心と体づくり					
	児童生徒同士のかかわりを充実させ、責任感や自主性、相手を尊重する心を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が、友達を意識したり、大事にしたりする言動が増えたと答える保護者 95% 教員 100% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 「～くん」「～さん」付けのルール化について、生徒が柔軟に対応できるように指導することも大切である。
	健康な体づくりや運動機能の維持・向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の健康な体づくりや運動機能の維持向上に努めたと答える保護者 100% 教員 95% 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 健康な身体と体力づくりが、まず基本である。

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
	豊かな表現力と感性を 育てる指導の充実を図 る。	・児童生徒が本に 親しむ習慣が身 についたと答える 教員 100%	A	A	・お話し会や高等部生徒の読み聞 かせ等、取組が充実していた。
		・学期1回以上の 校外展示会、発表 会、コンクール等 への参加	A	A	
エ 学びを広げる新たな関係づくり					
	保護者や地域、関係機 関等への積極的な情報 発信とキャリア教育の 推進を図る。	・各学部月1回以 上、地域社会に対 して積極的に本 校の教育活動を 発信する。	A	A	・情報発信を引き続き多様な機 会に行い、さらにセンター的 機能の充実を図ってほしい。
		・進路連絡会・学校 見学会等が有意 義だったと答える 参加者 100%	A	A	・小中学校の保護者が、子ども の将来の姿をイメージできる仕 掛けが必要。小・中学校の保護 者にも高等部の活動をみてもら うとよい。
		・年2回以上の保 護者を対象とし た学習会の実施 ・年1回以上の進 路をテーマとし た学年会の実施 ・学校は必要な情 報を保護者に提 供する機会を設 けていると答える 保護者 100%	A	A	・保護者対応は学部や学年等の チーム（組織）で対応し、日 頃から信頼関係を構築してお くことが大切。 ・昔と比べると、教員と保護者 との間で距離が広がったよう に感じる。 ・昔のような児童生徒連絡網の ようなものではないか。
		・児童生徒に対し て適切な相談支 援が行われたと 答える教員 100%	A	A	
		・児童生徒にとっ て有意義な交流 であったと答える 交流校及び本 校教員 95%	A	A	